

## 平成 28 年度 日本大学東北高等学校 自己評価票

### 〔本校の目指す学校像〕

日本大学の目的及び使命に基づき、「忠恕の心」「自主創造」「真剣力行」を教育方針（校訓）とし、大学との一貫教育を推進しつつ、生徒の多様なニーズに応えることのできる総合力を持つ高校としての発展を目指す。

日本大学工学部に併設する工業高校として創設された。その後、社会や時代の要請に従い改革を進め、現在は日本大学付属の進学校として地域社会に定着、評価されている。

### 〔本校の特長〕

1. 教育方針に基づき、明るく健康的で、思いやりがあり、創造性豊かな努力する人間を育てる。
2. 日本大学進学を第一として、地域性を考慮しつつ、生徒の多様な進路目標の実現を図る。
3. 基本的な生活習慣を確立し、自主自立的な行動ができるよう指導する。
4. 専任カウンセラー及びインテーカー資格を持つ教員が常時、増加する心の問題を抱えた生徒や保護者の相談に当たる。
5. 人との関わりを大切にし、感動する心を育てるため、その源となる生徒会活動を活発にする。

### 〔本校の課題〕

1. 急激な少子化の中での安定的な入学生の確保
2. 生徒の学習意欲の向上と家庭学習の充実
3. 教育環境の整備と充実

### 平成 28 年度の取組結果

#### 〔概況〕

「学校自己点検・評価シート」を利用した教職員による自己点検・評価結果を踏まえ、分掌ごとに取り組んだ結果、多くの面で改善がなされた。

教科指導においても「生徒による授業評価アンケート」の結果や「教員による自己評価チェックシート」により改善が見られた。評価の低い項目については、平成 29 年度においても改善の方策を検討していく。

評価項目	取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教育活動	自主的かつ主体的に学習に取り組む環境の充実	I コース及び I コースの体育クラスで、学業と部活動の両立ができていない生徒が多い状況から、学年集会や体育クラス集会を通して、生徒及び部活動顧問の意識改革を進めたが、まだまだ、十分に改善されておらず、今後も継続的に進めていく。生徒の自発的な学習のきっかけづくりとして、自学室の環境整備に取り組んだ。始業前の朝自学の実施、実力試験・各種検定試験を活用した啓蒙的掲示を行い、生徒の意識改革を行い、徐々に利用者が増加している。	B
	確かな学力の定着及び生きる力の育成に向けた取組	基礎学力到達度テストに向けて、授業・家庭学習・定期試験・模擬試験等への対応を充実させ、各部署との連携を図り生徒の学力向上を進めてきているが、まだまだ、不十分である。また、総合学習の時間を活用し、国際的視野の育成、コミュニケーション能力の養成を行うとともに、生徒の主体的な行動力の成長を目指した指導を続けてきており、少しずつ定着してきている。今後も更に充実させていく必要がある。	B
	生徒による授業評価結果に基づく授業改善	年 3 回の研究・公開授業を通して、教育力の向上を図り、確かな知識・学力の定着を図ってきたが、各教科とも十分に準備・工夫をして着実に授業力の向上につながっている。	B

学校生活への配慮	学校生活への配慮	交通事故、問題行動等の増加により、それらへの対策、特に進路が決まった3年生の2学期以降、学校生活に対するモチベーションを上げるような取組が必要である。生徒の自己有用感を育むような取組が必要である。	B
	生徒に合わせた指導の充実	多様化する問題に対して、指導が適切であったかを検証したとき、反省すべき点があった。きめ細かい指導、防止対策を重点とした取組が今後の課題である。指導部のみならず、学校全体での組織的対応を今後も継続していく。	B
	いじめ防止のための取組	いじめによる指導、重大事件に発展するケースはなかったが、いじめアンケートの結果を検証し、対応するまで至らなかった。生徒、教員の研修も継続して行う必要がある。	B
課外活動	生徒会活動の充実	特色ある文化祭や予餞会の開催について、より本校の特色を出した内容になるよう努力したが、まだ改善の余地がある。「学校自己点検・評価シート」の「生徒会費が適正に活用されているか」という設問以外は平均点が2点台であり、3点台になるよう次年度に結び付けていきたい。	B
	部活動の充実	各部の用具・備品を含めた活動費の充実について、環境を整えることができた。その一方で、「学校自己点検・評価シート」の「部活動等、課外活動が活発に行われ、その指導体制は適切に行われているか」という設問の平均点が2.40、「生徒会活動や部活動を行う上で、施設や設備は十分整えられているか」という設問の平均点が2.37と示すように、指導体制や施設・設備に大きな問題点を残している。今後、学校側と相談し改善していきたい。	B
進路指導	進路指導資料の改定	新付属推薦制度実施に伴い、掲載する成績の項目を見直し編集を行うことができた。また、付属推薦制度に関する資料も充実させ、より活用してもらえるよう工夫を行った。	A
	進路ガイダンスの実施趣旨の説明を徹底する	「学校自己点検・評価シート」の「生徒の特性を考慮し進路希望を踏まえた年間指導計画が実施されているか」という設問の平均点は、3点以上を維持できている。さらに、効果を上げるために、実施に当たり各学年会において事前説明を実施していきたい。	B
	日本大学への進学者数増加に向けた取組	日本大学学部説明会、日本大学工学部学科説明会を実施し、その中で、学部の紹介・日本大学の素晴らしさ、新付属推薦制度等を説明した。また、基礎学力到達度テストに向けての対策模擬試験、進学補習を実施した。しかし、本年度は、修学旅行の実施時期の変更があり、2年生の「学研日大チャレンジ」に向けての事前指導を十分行うことができなかった。	B
保健衛生	教育相談体制の充実	本校専属のカウンセラーがそれぞれの生徒の状況に応じて、きめ細かい指導を行っている。また、生徒相談室と担任・学年会・生活指導部と連携が円滑に行われており、複数教員による生徒のサポート体制が達成されている。	A
	性に対する指導	6月30日に、1年生を対象に外部講師による「性についての講演会」、7月20日に2年生男子を対象に本校教諭による「性に対する講話」を行った。大変分かりやすく生徒達が興味を持てるような構成になっており、性についての正しい知識を身に付けさせるとともに、異性関係・交友関係の在り方や命の大切さについて考えさせることができた。	A

図書	図書室利用の推進	<p>4月に各クラスに、学級文庫（書籍約30冊）を設置した。管理は図書委員が責任を持って行ったが、教室での生徒たちの読書に結びつけるためにも、さらに工夫が必要である。</p> <p>4月に「図書館利用案内」をクラス配布し、渡り廊下へも掲示した。年2回、新刊案内を掲示し、「図書だより」を発行した。来年度も計画的な読書指導の必要がある。</p> <p>日本大学附属高等学校等文芸コンクールに合わせて、国語科で校内文芸コンクールを実施している。優秀な作品に対して、賞状、賞品を授与して、文芸作品の創作意欲の高揚に協力できた。</p>	B
	芸術鑑賞会の充実	<p>今年度の芸術鑑賞テーマを「古典芸能」とし、「学校寄席」を鑑賞した。図書委員が係員として活躍し、スムーズに鑑賞会が実施できた。</p>	A
広報	広報活動	<p>本校の教育活動について、理解を深めてもらうため、広報誌を年3回発行し、県内各中学校及び関係各機関に送付した。</p> <p>本校の特色・教育方針・教育活動が理解してもらえるインパクトのある学校案内の作成に努力した。</p>	A
	生徒募集活動	<p>オープンスクール及び学校説明会では、昨年同様2,000名の参加者を超えた。これは1か月半前から流したCM放送の効果であると思われる。在校生からのメッセージや部活動の見学は好評であった。例年、参加者の約60%が本校を受験していることから、参加者をさらに増やすことが今後とも重要と考える。</p> <p>入試説明会は昨年よりは若干減少したが、250名を超える参加者があった。3教科主任の模擬授業は今年も大好評であったことから、次年度も継続していきたい。</p> <p>中学校訪問の充実については、年間2回（6月、11月）、県内各中学校への学校訪問を全教職員で実施し、本校のPR活動を展開した。教職員の現状把握と意識の向上につながり良い結果が出ている。また、各中学校との情報交換を通して、多く出された貴重な意見を、今後の活動に生かしていきたい。</p> <p>塾訪問については、今年度から始めたが、効果の状況はまだつかめていない。今後さらに充実させていきたい。</p>	B
管理運営	個々の教職員の課題把握	<p>校務運営委員会と教職員会議で、教職員が積極的に発言や意思疎通が図られるよう取り組み、会議進行等に工夫をするなどにより、一定の効果があった。</p>	B
	環境問題への取組	<p>冷暖房の設定温度を夏季28℃、冬季22℃に設定した節電の取組、照明やエアコンの消し忘れ等の確認をこれまで通り行った。ただし、生徒に対する環境への積極的な取り組みまで結びつかなかった。</p>	B

【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

#### 中長期的目標の取組結果

評価項目	取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
管理運営	新校舎建設に係る財源確保	<p>新校舎建設に向け、今後は毎年1億円の借入金返済を確実に実行するため、予算作成時には1億円の返済分を除いた上で作成していくことを前提とするとともに、将来の建設費への補填等を目的に、平成28年度学費から施設設備資金の増額（20,000円）を決定した。</p>	B

		財源確保対策として、平成 29 年度は最低でも募集定員 450 名の入学者の確保が必要となるが、オープンスクールや入試説明会の積極的な開催等により生徒募集活動に努めたが、平成 29 年度志願者(特に専願者)は 90 名程度の志願者減となった。	
	新校舎建設計画実現に向けての対応	本校の新校舎建設については、大学の重要整備計画として平成 26 年 11 月 25 日に大学本部にて承認されている。今年度は設計の実施に向けて、教職員会議において、重要整備計画申請時の基本構想スケジュールにある設計の実施についてこれを諮り、承認されており、平成 29 年度の実施スケジュールについて現在調整を行っている。また、校庭の人工芝化を図り、平成 29 年度中に対応が完了する予定である。	A

【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

#### 平成 29 年度の取組目標及び方策

評価項目	具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
教育活動	自主的かつ主体的に学習に取り組む環境の充実	I コース及び I コースの体育クラスで、学業と部活動の両立ができていない生徒が多い状況から、学年集会や体育クラス集会を通して、生徒及び部顧問の意識改革を進める。また、「スコラ手帳」を有効活用し、家庭学習を含めた自己管理を徹底し、主体的な生活習慣を身に付けさせる。	I コース集会 (年 3 回: 各学期) 体育クラス集会 (年 3 回: 各学期) スコラ手帳: 通年 自学室指導: 通年
	確かな学力の定着及び生きる力の育成に向けた取組	基礎学力到達度テストに向けて、授業・家庭学習・定期試験・模擬試験等への対応を充実させ、各部署との連携を図り生徒の学力向上を目指す。また、年 3 回の公開・研究授業を通して、授業力の向上を図る。	研究・公開授業 (年 3 回)
	生徒による授業評価結果に基づく授業改善	年 3 回の研究・公開授業を通して、教育力の向上を図り、確かな知識・学力の定着を目指す。	研究・公開授業 (年 3 回)
学校生への配慮	学校生活への配慮	基本的な生活習慣の確立、遅刻対策など、集計を基に迅速に担任との連絡、対応をする。事件・事故の未然防止においても定期的な校内巡視・講演会等を実施する。	通年
	生徒に合わせた指導の充実	多様化する問題に対しての教員のスキルアップを図り、適正な指導ができるようにする。そのための情報の共有化(学年・保健室等)を図り、生徒・教員の距離をなくすような取組を積極的に実施する。	通年
	いじめ防止のための取組	委員会の充実を図り、いじめについての教員のスキルアップと、継続して実施するアンケート結果に基づ	通年

		<p>く指導の充実を目指す。</p> <p>生徒が本校でのびのびと生活できる環境作りに取り組む。</p>	
課外活動	生徒会活動や部活動を行う上での施設・設備の充実	<p>「学校自己点検・評価シート」の「生徒会活動や部活動を行う上で、施設や設備は十分整えられているか」という設問の平均点が 2.37 と低い評価になっている。地域の周辺校と比較すると、施設・設備の点では恵まれている方であると考えるが、実際に使用している生徒の声を聴くと、要望は十分には満たされていないので、学校管理職及び事務課と協議し充実を図る。</p>	通年
	部活動等、課外活動の活発化と指導体制の改善	<p>文化部の活性化とボランティア活動への積極的参加を充実させる。また、指導体制について、学校管理職と話し合い、問題の解決を図る。</p>	通年
進路指導	進路情報収集のための施設・設備の充実	<p>生徒・教員が進路情報収集をしやすいように資料の整理、設置の工夫を行う。また、どのような資料が保管されているのかを周知していく。</p>	通年
	キャリア教育等、生徒の体験的活動を積極的に取り入れる	<p>医療系職業体験の周知を徹底する。また、次年度実施する1学年の進路ガイダンスに、アクティブ・ラーニング型ガイダンスとして、グループワークを取り入れたガイダンスを2回実施し、「講義型」から「アクティブ・ラーニング型」のガイダンスへと更新する。</p>	随時
	日本大学への進学者数増加に向けた取組	<p>日本大学説明会、入試制度説明会、また、基礎学力到達度テスト対策模試、進学補習を実施する。</p>	随時
保健衛生	教育相談体制の充実	<p>相談室内の環境の改善を行う。また、相談室と担任・保健室・生活指導部との連携を強化し、複数教員でのサポートを展開していく。</p>	通年
	性に対する指導	<p>1年生への講演会を実施するとともに、学年ごとに男子集会・女子集会を実施し指導を行う。教員間での指導方針の共通理解を図る。</p>	通年
図書	図書室利用の推進	<p>学級文庫の設置や新着図書の案内を通して図書室利用者の増加を目指す。</p> <p>文芸コンクールへの協力をする。</p>	<p>通年</p> <p>新刊案内・「図書だより」の発行</p> <p>読書案内の掲示</p> <p>学級文庫の管理</p>

	芸術鑑賞会の充実	平成29年度の芸術鑑賞テーマを「演劇」とし、「消えた海賊」を鑑賞する予定である。鑑賞会の実施に向けて立案と準備を充実させる。	芸術鑑賞会 10月19日(木)2回公演
広報	広報活動の充実	オープンスクール・入試説明会の充実及び参加者の増加策について、早期のCM放映・ちらし配布などにより、イベント開催の認知度を高めるなど、昨年度の反省を生かし更なる充実を図る。	通年
	生徒募集活動の活性化	中学校訪問・塾訪問の充実を図るとともに、訪問する教員の面談スキルの向上を目指す。保護者会・報道機関への積極的な働きかけを行い、本校に対して便宜をはかってくれる保護者会・報道機関などを増加させる。受験生確保が入学者につながることから、入試改革を行い、受験生確保に努める。	通年
管理運営	個々の教職員の課題把握	引き続き、校務運営委員会と教職員会議で、教職員が積極的に発言や意思疎通が図られるよう取り組み、併せて、別の方法によって教職員の課題が把握できないか、今後検討する。	平成29年4月～
	環境問題への取組	冷暖房の設定温度を夏季28℃、冬季22℃に設定した節電の取組、照明やエアコンの消し忘れ等の確認を継続して行い、注意喚起を行うことで、環境への取組に結びつくよう啓発に努める。	通年

#### 中長期的目標及び方策

評価項目	具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
管理運営	新校舎建設に係る財源確保	新校舎建設に向け、今後は毎年1億円の借入金返済を確実に実行するため、予算作成時には1億円の返済分を除いた上で作成していくことを前提とするとともに、財源確保対策として、様々な取組を実践していくことで、志願者の確保に努める。	平成29年4月～
	新校舎建設計画実現に向けての対応	東北高校の新校舎建設に当たり、基本設計を終え、実施設計が円滑に進むよう、関係各部署との密接な連携を図りつつ、新校舎建設に向けた対応に努める。	平成29年4月～